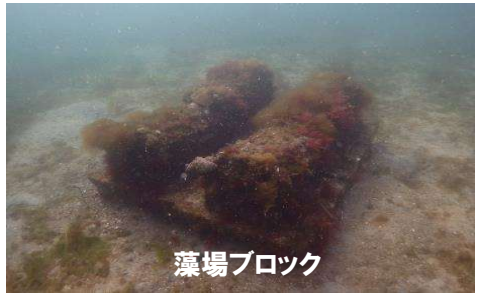
プロジェクト名：似島二階及び長浜地区藻場造成・保全プロジェクト

プロジェクトの概要

- 似島は広島湾南約3ｋｍ沖にある、広島市最大の島で、明治・大正・昭和と三代にわたって、海外の戦場から傷つき疲れ帰国してきた兵士の検疫所として使われてきました。また、原子爆弾投下直後には、検疫所は臨時野戦病院となり、約１万人の負傷者が広島から搬送された場所です。今もなお当時の遺跡・史跡が点在しており、戦争や原爆の恐ろしさ・悲惨さ、そして平和の尊さを肌で感じられる島です。
- 1987年度（昭和62年度）に島の西部に位置する長浜地区で運輸省が、また、1989年度（平成元年度）に南西部に位置する二階地区で広島市漁業協同組合が、人工干潟を造成したことにより、光環境や底質環境等のアマモの生育条件が形成されました。
- その後、長浜地区では広島市が藻場ブロックを設置し、また、二階地区では、広島市が約5,000㎡のアマモの移植を行うとともに、広島市漁業協同組合が藻場ブロックを設置したほか、アマモ場周辺にカキ養殖の抑制棚を設置したことにより水質浄化が進み、アマモの成長を促しています。

プロジェクトの特徴・PRポイント

- アマモ場の保全活動を通じて、CO2の吸収による地球温暖化の抑制だけでなく、カキのえさを増やし、多くの魚類・甲殻類の棲家になる等、豊富な海洋資源を持つ**瀬戸内海を豊か**にしています。
- また、令和３年度から、藻場ブロックを設置し、**新たな藻場の生育環境の創出**をはかる活動を行っています。
- 今後は、クレジットの収益も活用しながら、**アマモの移植**や**藻場ブロック設置**等による藻場の拡大・維持活動を実施し、ブルーカーボンによる脱炭素社会に貢献します。